

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成28年7月5日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	469720022
法人名	有限会社 南の太陽
事業所名	グループホーム 南の太陽
所在地	鹿児島県肝属郡東串良町新川西1356 (電話) 0994-45-7373
自己評価作成日	平成28年5月20日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島県鹿児島市下荒田2丁目48番13号
訪問調査日	平成28年6月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームが開設され、もうすぐ2年が経過します。1年目より取り組んでいる在宅診療・訪問看護ステーションとの連携もスムーズになり、安心・安全面については、利用者様・御家族からも喜んで頂いている。開設当初からの利用者様の高齢化や認知症の増悪もあり、職員の対応が難しいケースがありました。臨時でのケース会議を開催し、利用者が望む事・望まない事を改めて検討し、統一したケアができるように取り組んでいます。また、看取り介護についても医師・看護師・介護士と連携を図り、当ホームでの看取りを3名経験してきました。訪問看護師よりベッド上での手浴・足浴の方法・経口摂取が難しくなってきた方への水分補給の方法・タッチケアや声かけなどについて指導を受け、一日でも利用者様がその人らしく快適な生活ができるようなケアを行っています。日々の生活については、基本的にお風呂は午後から夕食までの間に入って頂き、一日の流れを作っています。午前中には、ラジオ体操・リハビリ体操・嚥下体操などを集団で行い、認知症・介護予防に努めている。また可能な方は、施設周辺を散歩したり、個別で平行棒を使用し歩行訓練を行っています。定期的な行事としては、季節行事・誕生会・ランチバイキング・お菓子作り・ドライブ・ドックセラピーなどを行っています。(有)南の太陽の部署合同イベントとしては、そうめん流し・秋祭り・餅つき大会などを実施し、利用者同士の交流のみならず、地域の方々も招待し皆が楽しめる行事を行っています。広報面では、南の太陽グループのHPのブログ(facebook)にて行事写真などを随時掲載し、御家族・親戚・知人・友人へも知って頂けるようにしています。また月一回のひまわり新聞(施設の行事広報)には、一か月の行事などを集約し、家族への報告や運営推進会議にて関係者へサービス状況を報告しアドバイスを頂いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・当ホームは、東串良町郊外の田園風景が広がるのどかな河川敷に位置している。役場、消防署が近隣にあり、今年6月には、系列の「住宅型有料老人ホーム南の太陽」がオープンしている。隣接した介護サービス事業所との連携もあり、職員が安心して職務に従事できるよう保育園も経営している。大隅地区にも、小規模多機能ホームを始めとする複数の介護事業所を運営している。

・理念については、昨年、管理者や職員が全員で話し合い作成した。地域密着を意識し、その人らしい暮らしの実現を目標に家族や地域との関係性を大切にするとした理念である。ホームの理念はできたばかりであるが、法人の運営理念、毎年度のキャッチフレーズとともに職員に周知されている。

・ホームは、看取りについても柔軟に取り組んでおり訪問看護師との連携や協力医、それぞれの利用者ごとの主治医、家族、関係事業所との密な連携などにより、すでに3名の看取りを経験している。また、看取りに際しては職員への教育や精神面のフォローにも力を入れている。

・日常は、隣接したデイサービスに運動に行ったり、近隣を職員と散歩したりされる方や集団体操、(ラジオ体操・リハビリ体操・嚥下体操など)に取り組み廃用予防に取り組んでいる。また、外出支援にも熱心でドライブや初詣、花見などに出かけたり、法人の行事に参加し利用者や地域の方々との交流を深めている。また、地域とは、運営推進会議や避難訓練への協力体制が構築され、地域全体の防災訓練へ参加するなど、折に触れて協働している。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	前回の評価時には、事業所理念を作成していなかったが、指摘後は理念を施設内に掲示し、理念の思いを形にしようとしています。	理念は、職員全員で話し合わせ地域密着を意識したものとなっている。職員は、毎年度のホーム独自の短期的方針は職員全員に浸透しているとは言い難いが、ケア会議などで振り返るなど少しずつ意識されてきている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	去年は、南の太陽開設10周年を迎え、秋祭りを実施。地域の方々も大勢参加して頂けた。また地域の老人会の方がされている神社の清掃作業と一緒に参加させて頂き交流をしている。	地域とは、毎月の清掃作業や作業後の老人会でのお茶会を通じて交流している。法人は、事業所が開設される以前から地域との付き合いがあった。毎年、秋祭りを開催し地域の方に来て頂くなど日常的に交流している。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	認知症についての理解や支援方法は、地域の人々へは生かしていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催し、毎月の行事報告や問題発生時の報告をし、アドバイスを頂いている。	会議では、事業所の活動報告を受け参加メンバーから質問、意見交換、要望を受けるなど双方向の会議になっている。管理者は、会議録が利用者家族を始め訪問者がいつでも閲覧ができるよう検討している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議を通じて、担当者と意見交換を行ったり、年一回の実施指導時に指導・助言を頂いている。	役場担当者との関係性は良く、日頃から報告や連絡、相談などおこない指導・助言をいただいている。職員向けの研修会案内もあり、職員の資質向上のため積極的に参加できるよう配慮している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	代表者及び全ての職員が身体拘束についての理解を深め、利用者御家族へも説明し、今後やむ得ず拘束が必要な利用者がいた場合に備えている。	ホームは、デイサービス、小規模多機能施設などと隣接しており、外部からの訪問者も多いが、玄関を施錠することなく自由な暮らしを支援している。身体拘束マニュアルなどの資料をもとに勉強会を実施し、国が示している、「身体拘束禁止の対象となる具体的な行為」について共通認識を図り理解を深めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止について、個別や職員会議を通じて利用者への関わりを検討し、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、各制度による支援者がいない事もあり、勉強会や制度の活用について検討した事が無い。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居時に説明を行っている。その後については、御家族と連絡を密に取り、理解を得ている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族会や面会時などを通じて御家族の意見を聞き、各利用者様の要望に応えられるようにしている。</p>	<p>管理者や職員は、利用者や家族から直接の意見や要望を聞き取りサービス内容を変更したり、事業所全体の運営に係る提案などが出しやすい雰囲気作りに努めている。また、年1回の家族会ではビデオにて事業所の活動報告を行っている。家族からは、食事についての要望が提案され運営に反映させている。</p>	
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>日々の昼礼や月一回の職員会議を通じて、各職員の意見や提案を聴く場を設け、可能な限り反映させている。</p>	<p>法人は、職員が安心して職務に専念できるように保育園を運営し、必要に応じて休暇が取れるよう配慮するなど職場環境を整備している。管理者は職員と面談、人事考課システムがあり、自己評価をもとに職員が向上心を持てるよう働きかけている。モットーに「笑顔」を掲げ日々実践している。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>法人内で人事考課にて現状と目標管理を行い、職員個々の努力や実績を評価している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人内の研修参加や外部のセミナー・研修会への参加をさせると共に、介護福祉の資格取得を促している。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>嘱託医からの紹介で「認知症研修」に参加したり、今後も積極的に参加するように努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居時、安心して生活できる場所と感じて頂けるようにコミュニケーションを取っている。</p>		
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>家族の思いなどを聞き今後の支援を家族と考えて行くようにしている。家族の面会日や電話連絡時に家族の要望を聞いている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>本人様や家族の思いを取り入れ今後に必要な支援を考えていくようにしている。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>できる事は本人様に行き、一緒にできる事は一緒に行っている。支え合う関係作りをしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の来訪時、電話連絡時に本人の生活状況を伝え、家族の思いを聞き本人を支えていくようにしている。家族様との情報提供を通して、共に支え合っていける様な関係を築いている。また一緒に過ごす時間を設けて頂ける。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	特定の家族の方の来訪がありお話をされる。知り合いの方との面会の場を通し関係作りを継続の支援をしている。家族や知り合いの方との面会の場を大切にしている。職員は、友人や兄弟親戚などが訪問した時、居室でゆっくり話ができるようにしている。	家族や地域に暮らす知人などが面会に来られ、継続的な交流ができるよう働きかけている。家族に携帯電話で連絡をとる利用者もいる。また、地域の行事へ参加するなどできるだけ地域と接点を持ちながら関係を継続させるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士、楽しく会話ができるように座る場所など考え孤立する事がないように支援しているが、認知症も進んだ方もあり思いやりなど難しい。口論になる利用者様もいるが、トラブルにならない様に配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所されてもこれまでの関係を大切にしよう配慮している。サービス終了後も家族様から相談などがあれば支援をできるように配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人様の希望を尋ねたり生活の中での思いを把握したりして困難なときどうすべきかを検討するよう支援している。本人様の思いや希望を聞き出来る事から努めるようにしている。	日々の暮らしの中、一人ひとりの思いに寄り添い、表情や言動などを通じて理解できる利用者もあるが、本人の思いが果たして職員が思う通りの意向であるかどうかケア会議などで話し合い検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェイスシート等で、これまでの生活環境、サービス利用状況の把握に努め、支援に繋げるようにしている。ご家族からの情報も取り入れ暮らしぶりを把握し、サービス利用に繋がられるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の生活日誌の確認、申し送り等による把握、表情や行動の観察に努めている。月一回のミーティングでも現状を把握している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者が問題点や気づいた事を提示し話し合いを行いその方にあった介護計画を立てられるように努めている。モニタリング担当者が本人により良い生活をして頂く為に、ミーティングで意見を出している。	ケアカンファレンスをおこない、アセスメントを踏まえ本人や家族の思いや意見を聞き目標やサービス内容などを話し合い計画に反映させるようにしている。モニタリングは、必要に応じて適宜実施され、計画の見直しにも柔軟に取り組み現状に即した計画を作成している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活の中での変化や様子を記録に記入し、情報を分かりやすく提示することにより、介護計画の見直しに繋げている。申し送りの時間を設け情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・家族の状況に応じた柔軟な対応に努めている。本人の体調が悪くなったり、問題が起こった時には上司に報告し対応が遅れないようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	往診・訪看・訪問美容室・ドックセラピーの利用を支援できている。地域の活動に参加して本人が心身の力を発揮出来るように支援して行きたい。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホーム協力医院と連携をとり、適切な医療を受けられるような体制を整えている。家族の希望があれば、受診や通院の通院の付き添いをし、家族に連絡・報告している。受診が必要な際は家族に連絡し受診後家族に結果と報告をしている。	協力医担当が7名、2名は本人・家族が希望する主治医となっている。他科受診は、原則家族に依頼しているが、職員も家族と協力して通院介助を行うなど複数の医療機関と密に関係を結んでいる。訪問看護職との協働もあり、適切な医療を受けられるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回訪問看護の健康チェックを行っている。そこでは、現場介護職が1週間の状態を報告し、助言を頂いたりして連携を取っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	病院に入院した場合、病院の相談員の方とケアマネが連絡を取り合い、経過状況や退院後について情報交換を行っています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重症化や終末期を迎えられる利用者については、医師・訪問看護師・御家族・介護職で話し合いを行い、出来るだけ利用者・御家族の意見を尊重している。	利用者、家族には、「看取り介護に関する指針」「看取り介護の意向確認書」「看取り介護の同意書」などを用いて説明と同意をいただいている。すでに3事例看取りを経験している。職員会議では、訪問看護師を交え看取りの勉強会を実施し、本人や家族の意向を踏まえ、医師、職員を始めとする関係者間が連携をとり、納得した最後が迎えるように、随時意志確認をしながら取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日々の昼礼や職員会議で利用者の急変時や事故発生時の対応について情報共有をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>定期的に防災訓練を行い、利用者の誘導や避難場所・避難場所までの時間は確認している。</p>	<p>町全体の非常災害訓練（水害対策）には、ホームの男性職員全員が参加している。年2回避難訓練を実施、分団員の協力体制もあり日常では、外出の際利用者とともに避難模擬訓練を実施して安全確認をおこなっている。また、アルファ米、水などの備蓄もしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声かけの対応が十分に出来ていない職員もいる為、引き続きプライバシーを損ねない声掛けができるよう、注意していきたい。	職員が交代制で定期的に接遇マナーの勉強会を実施するなど職員の意識向上や知識の研鑽、技術会得などに力を入れているが、職員のスキルにばらつきがあり今後の課題である。管理者などは、必要に応じその都度指導するよう心がけて利用者や家族に失礼がないよう配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者に選んで頂けるような、声かけをし自己決定できるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の体調に配慮しながらその時本人の気持ちを大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	季節に合わせた衣類着用の支援、髭剃りへの支援をしている。また、髪のカットの希望の際には、美容院への依頼の連絡等も行っています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と利用者様が、一緒にテーブルで同じ食事をとりながら楽しい時間を過ごせるよう心掛けています。定期的にランチバイキングを行い、好きな食事を摂って頂いている。	食事は、隣接した有料老人ホーム厨房から配食されているが、炊飯はホームでおこない簡単なおやつは利用者と職員が手作りしている。献立は、管理栄養士が作成、職員は月1回給食会に参加し利用者の食の楽しみや自立支援について話し合っている。お膳拭きなどを手伝われる方もあり、外食も取り入れ食の楽しみに力を入れている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量の少ない方には、好きな飲料を食事以外の時間で飲用して頂いている。食事は栄養士が管理し、バランスの良い食事を提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声かけ・誘導を行い施行されています。また必要時は、訪問歯科に見て頂いている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄パターンを理解し、トイレ誘導の時間帯やパットの付け方を検討している。	排泄チェック表にて排泄のリズムを把握し、トイレ誘導は本人のプライドやプライバシーに配慮している。おむつの勉強会を実施し、おむつの当て方、効率のよいおむつの使用方法について検討し、本人、家族の意向に沿うよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の方へは、水分補給や体操・マッサージを行っているが、排便困難な方は整腸剤や下剤のコントロールを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	自宅のように午後から夕方にかけて入浴を行っています。体調以外にも気分も考慮して入浴を支援している。また、風呂場に音楽を流したり、入浴剤を使用して楽しんで頂いています。	入浴は、これまでの本人の生活習慣や希望に配慮し午後から入浴してもらっている。入浴を楽しみにされている方も多く、気持ちよく入浴ができるよう工夫したり、楽しんでいただけるよう配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	毎日の体操や外出レクで生活リズムが取れているが、夜間帯での途中覚醒の方には、声掛けを行いながら過ごして頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情は、内服薬変更時など、常にファイルにて確認・共有し、頓服などの服薬時には看護師の指示を仰いでいる。服薬後は、飲み忘れがないか、ダブルチェックを行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴を把握し、可能な利用者には洗濯物干し・たたみや食事後の台拭き・おしぼり作りなど役割を持って頂いている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その方の活動量を把握し、リビング内での歩行・平行棒での歩行・施設周辺の歩行など天気の良い日には定期的に近隣をドライブして気分転換している。	デイサービスに出かけ平行棒内の歩行練習やウォーターベットを使用したり、軽めのリハビリをされる方や個別に近隣を散歩される方がある。外出は計画的に実施され、花見には手弁当を持参、外食、初詣、遠足、ドライブをして外出し、季節を五感で感じられるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>本人がお金を持つことについての支援はしていない。外出の際に家族に了解を得ておこずかいを預かり、職員が付き添って買い物出来るよう支援している。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>必要に応じて家族と電話を希望された時は、やり取りを支援している。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>リビング・トイレ・居室は、定期的に掃除を行っている。入床時・起床時の電気やカーテンの開け閉めを行い時間帯を意識して頂いている。温度・湿度管理は日中定時で確認し、必要時にはリビング・居室に加湿器を設置し感染予防を行っている。</p>	<p>玄関には、顔写真で職員紹介がされ、利用者の年初めの願いの書かれた絵馬、ちぎり絵が掲示されている。対面キッチンがあり、ソファや食卓などで思い思いにくつろげるよう配慮されている。また、居室は、居間を囲むように配置されている。トイレにはファンヒーターが設置され床材もクッション性にこだわるなど保温や安全性に気配りしている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>日中、仲の良い利用者同士でソファで話をされたり、居室で一人ゆっくりして頂いています。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>自宅で使われていたタンスや寝具類を持って来て頂き、家族の写真を飾ったりして、居心地良く過ごして頂けるよう、工夫をしています</p>	<p>ベッド、洗面台が備え付けられ、寝具、衣装タンス、ぬいぐるみ、家族写真など使い慣れた物を持ち込み居心地よく過ごせるよう工夫している。また、居室は、畳スペース、フローリングに畳のコラボと交互に配置されており畳は必要に応じて洗浄し、清潔に配慮して気持ちよく過ごせるようにしている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>利用者一人ひとりのできる事できない事を把握し、家事など手指運動を取り入れたりして自己にてできる事は時間をかけても見守りにてして頂いている。</p>		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		1 毎日ある
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
		○	3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない